

脚部への美意識とその変容における靴下のデザイン変化
—18・19 世紀初頭の西洋における男性用靴下に対する美意識と
現代日本の若年層女性の靴下に対する美意識の比較—

Changes on the design of stockings and socks in the sense of beauty of the day and its
transition – Comparison between the Western European men in 18th and early 19th century
and young women in today's Japan

香川 幸子*¹⁺, 鈴木 直恵*¹⁺, 瀧本 雅志*²⁺, 鴫田 章*³⁺, 野末 和志*⁴⁺, 五十嵐 光二*⁺
Sachiko Kagawa*¹⁺, Naoe Suzuki*¹⁺, Masashi Takimoto*²⁺, Akira Tokita*³⁺, Kazuyuki Nozue*⁴⁺,
and Koji Igarashi*⁺

*1 文化学園大学服装学部 東京都渋谷区代々木 3-22-1
Faculty of Fashion Science, Bunka Gakuen University
3-22-1 Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo, Japan

*2 岡山県立大学デザイン学部
Faculty of Design, Okayama Prefectural University,

*3 エークロッシング
A-CROSSING Co., Ltd,

*4 (有)企画屋えぬ
KIKAKUYA -ENU Ltd.

*服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture,
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract : This research focuses on the excessive fashion awareness of the legs and aims to identify the reason stockings and socks have an important position in fashion by comparing the transition in the design, aesthetic consciousness and fashion sense during different periods. Research for this year will further centralize on clarifying the role and awareness of stockings in the younger female generation; surveys targeting young women will be carried out, as will stockings be designed reflecting their aesthetic sense.

目的

脚への過剰なファッション的意識がみられた 18・19 世紀の男性ファッションは、ファッション史が女性中心のためなのか、あるいは前近代的なものだからか、あまり顧みられることがない。しかし、脚のファッションというテーマに沿って考えるのであれば 18・19 世紀の男性の脚は大きなファッション史上の問題とならざるを得ないものである。また、現今の日本における若い女性に代表される脚のファッションも、ファッション史では扱いたいがたい過剰性を孕んでいるためか、正面から論じられていないと思われる。西洋ではなくア

*1) kagawa@bunka.ac.jp

ジア、フェミニンとは異なるセクシュアリティなど、60年代のミニスカートの脚に対してマイナーな位置にあり、過剰な強度を持っているといえる。本研究では2つのマイナーな脚のファッションを検証することで、脚からファッションを考えていこうとするものである。

本年度は、現今の若年層女性にみられるファッションにおける靴下の役割及び着用意識を明らかにすることを中心に研究を進める。そのために、該当する女性を対象に調査を実施するとともに、その美意識を反映させた靴下のデザイン展開も試みる。

本年度の活動

2011年6月～7月には、東京において18～25歳の女子大学生から靴下に関する2種類の資料を収集した。1つは、410名がファッション誌等から「靴下がファッションポイント」のコーディネートを中心に抽出した1人2枚のコーディネート写真、計820枚である。他方は、394名が実際に「靴下がファッションポイント」となるコーディネートを行い撮影した写真と使用した靴下の写真、各394枚である。それらを資料として靴下の形・素材・柄・装飾、イメージ、コーディネート等から、現今みられるファッションの特徴を分析した。

2011年9月～10月にかけては、フランスとイギリスの美術館で調査を行った。その折、フランスで18世紀のふくらはぎパッド付シルク製靴下をみる事ができた。これはふくらはぎ部分に絹のかせを編み込み、つま先は未縫製のものである。当時は短い脚衣から出る筋肉質のふくらはぎがセクシーポイントの1つであり、男性貴族に脚線美が求められていたことが伺える。また、19世紀に正規の流通経路でフランスへ輸出された信州の蚕種紙もみる事ができた。これには上田の売捌所の朱印と1873年に横浜港からフランスへ輸出されたことを示す印が押されている。並行して靴下編機の調査も実施したが、11月以降も最新の編機を含め継続して情報収集を行っている。

また、2012年1月には、東京において靴下についてのアンケート調査を197名の女子大学生を対象に実施した。アンケート内容は靴下の着装実態、脚部の露出との関係性やファッションに対する意識である。また、視覚的なイメージ評価として、先の女子大学生が実践した「靴下がファッションポイント」のコーディネートから、脚部の露出度が高いものについて印象評価を行った。

2012年2月～3月は、アンケート調査の結果を分析し考察を進めている。日本の若い女性のファッションは脚部の露出度が高く、その結果、靴下はファッション感覚のうえで大きな位置を占めており、他国にはみられない独特なファッションスタイルを生み出している。そこで、パリにおいてもアンケートやインタビュー調査を試み、表層のデザインだけでなくスカートの丈やウエアリングとの関係等から両国の違いを明らかにしていきたいと考えている。また、3月には文化学園服飾博物館が所蔵するヨーロッパの男性用靴下の実物資料も調べていく。そして、それらの美意識を踏まえながら、靴下のデザインを試み制作を行う予定である。

今後の展開

上着に関する資料に比べ靴下は残存する物的資料が少なく、それも一因となって当該領域に関する学術研究は十分になされていない現状にある。次年度は全体の総括を行いながら、18・19世紀を中心とする男性の靴下と現代の女性の靴下を通し、時代を超え靴下がファッションにおいて重要な位置を占める理由を明らかにしていきたいと考えている。また、このような視点による展覧会を開催する予定である。